801

（1）　第九十四百二号　（昭和25年8月15日 第三種郵便物認可）　小樽商大線「丘の新聞」　昭和二十八年七月十五日（水曜日）

緑丘新聞

発行所
小樽商科大学緑丘新聞会
小樽市緑町五丁目番外地
TEL 4050
購読料　一年 200円　半年 100円

第一回 学長改選せまる

夏休み遊説を「歸郷運動」と 全學連中執委 反戦スローガン採擇

出平度の各国大学長会議に学長選挙を実施出来るようの申し合せにより各新聞大学ではその改選を急いでいるが、本学においては未だ規約制定の段階にあり、教授会で審議の上、事務局長の出席により、教授会で選出された選考委員八名の承認で決定されたる学長候補者の了解を得ておそくとも十月中旬迄には発表されるものと思われる。

したがって現在の行われるの過渡期体制をなす様である。

この学長選挙については「評議会に関する規定」（仮称統制）「学長、学部長の選考規程」（仮称）「学長候補者選考委員会規程」（仮称）の三つの規定が決定、各大学はこの線に沿い選挙委員会が所定の選考委員会を持ち、選考規則を作ることになるのだが本学に於ては学長候補者選考委員会規則はなく、評議会承認で従って教授会がこれだけつこの点学長は例外である。

「学長、学部長の選考規程」によれば、学長候補者については、総職会が大学内外より候補者を推薦することになっており、選考委員会が教授会の代表者八名と学長の計九名で組織されている。学生の参加は認められず、学長選挙に関する学生側の意向は総職会に出席される組合代表者を通じ、自教組では、「二部上繰り上げ」をスローガンとして強く反対している。五月七日の自教組との交渉で文部省側では「この方法以外のルールで行われた選挙については認可はしないが、反対がない」とのべている。

現大学における学長選挙を考えると多くの問題点があり、二分の一の絶対多数を得る候補者がない場合は決選投票が行われるが、この場合は上位二名（八名制の場合）で学生十二名が選出し、又は選出しても候補者が欠員となった場合は、教授会で学長候補者を選出するとなっている。学生の立場としては学長候補者の選出に関し、学生代表の参加を要求しているが、学生の参加は認められず、学長選挙に関する学生側の意向は総職会に出席される組合代表者を通じ、自教組では、「二部上繰り上げ」をスローガンとして強く反対している。五月七日の自教組との交渉で文部省側では「この方法以外のルールで行われた選挙については認可はしないが、反対がない」とのべている。

現大学における学長選挙を考えると多くの問題点があり、二分の一の絶対多数を得る候補者がない場合は決選投票が行われるが、この場合は上位二名（八名制の場合）で学生十二名が選出し、又は選出しても候補者が欠員となった場合は、教授会で学長候補者を選出するとなっている。学生の立場としては学長候補者の選出に関し、学生代表の参加を要求しているが、学生の参加は認められず、学長選挙に関する学生側の意向は総職会に出席される組合代表者を通じ、自教組では、「二部上繰り上げ」をスローガンとして強く反対している。五月七日の自教組との交渉で文部省側では「この方法以外のルールで行われた選挙については認可はしないが、反対がない」とのべている。

選挙公示は七月中旬 ―學生關心無し―

学内人事　自川講師はフルブライト法による米国大学研究生として七月二十五日ごろ出発される。福井助教授は約一年間大学院は実施。

木村教授本事兼任　東京大学経済学部教授、木村健康氏は七月一日づけで本学教授を嘱任される。

論説　夏休みにのぞんで　歸郷運動を

今と既に夏休みにはるが、各自の日本を再認識する事、我々学生が今代を再認識する事、我々学生が今自分でやに、この夏休みの計画を立てたことであろう。今回アルバイトでもめられている人や、ヨーロッパ、ソンドクに明け暮れる人や、各自の経済力、環境などの為に種々である。ところで、その何人にも共通してする問題なく、各々が望む問題により種々であるが、もちろん一次的に許可しなければならない問題がある。それは学期に入る日本の現状とインテリゲンチャとしての我々大学生との問題である。今日、インテリゲンチャとしての我々大学生は、各大学はこの様に深い関係を持ち、問題解決を計り、問題解決を作ることになるのだが本学に於ては学生部長会議は名ばかりで従って教授会がこれだけつとの点学生は例外である。

学生部では学生部長会議と学生部長会議は名ばかりで従って教授会がこれだけつとの点学生は例外である。

「学長、学部長の選考規程」によれば、学長候補者については、総職会が大学内外より候補者を推薦することになっており、選考委員会が教授会の代表者八名と学長の計九名で組織されている。学生の参加は認められず、学長選挙に関する学生側の意向は総職会に出席される組合代表者を通じ、自教組では、「二部上繰り上げ」をスローガンとして強く反対している。五月七日の自教組との交渉で文部省側では「この方法以外のルールで行われた選挙については認可はしないが、反対がない」とのべている。

各大學の動き活潑 九州の水害救援に

九州の水害救援について北海道においても学生、職員の救援運動についての我々大学生としての問題である。今日、インテリゲンチャとしての我々大学生との問題である。

本学においても学生、職員の救援運動についての我々大学生としての問題である。今日、インテリゲンチャとしての我々大学生との問題である。

助教授省かる 教授會規則改正

本学の教授会規則は二年前大正期に制定されたが昭和二十四年六月新学制実施に伴い、教授会規則の改正が行われ、本学においても教授会規則改正について検討されていたが、九月中旬までに改正案が教授会に提出される予定である。

改正案の内容の一例の概略は次の通りである。

一、全学連　二七万円
二、機関紙「祖国と平和の為に」資金　四五万円
三、万国連盟、IUS準備委会　四五万円
四、おだづみ会へ　二〇万円
五、世界労連日本評議会へ　二七万円
六、民戦福祉事務所援護部へ　二七万円

インカレに出場 ヨット部

七月廿・五日、国府、小樽両港で行われた全日本学生選手権大会に参加した本学ヨット部は、十日三十日より四日間に亘って行われる全日本学生ヨット選手権大会に出場する。

監督　山本（OB）
艇長　市橋　平野　熊田　我妻
A級　笠原　新井綿　鈴木
B級　笠原　石田　加藤　鈴木
　　石田　関辺　富田

今回の成績は本学ヨット部としては戦後初の国際試合である。

講演部講演盛行

講演部部長より十日より五日間、道南に於て講演会を行う。

教員認定講習實施 七月二十日より

本学では、国家の行う教育職員免許状及び中学校教諭の新制度実施に伴い、昭和二十四年度より教員養成大学において教員の再教育を目的とし臨時教員養成講習を実施することになり、本学においても七月二十日より八月十日迄の一ヶ月間実施することになった。

講習科目は教育学、教育心理学、教育行政学、教育課程、教育方法、教育実習、教育統計、教育測定、教育相談、教育衛生、教科教育法、教科専門科目、教科専門科目の内容は教育職員免許法施行規則第一条別表第一に定められている。

講習科目は教育学、教育心理学、教育行政学、教育課程、教育方法、教育実習、教育統計、教育測定、教育相談、教育衛生、教科教育法、教科専門科目、教科専門科目の内容は教育職員免許法施行規則第一条別表第一に定められている。

二十九年度 入試要項

昭和二十九年度入学試験要項

小樽商科大学

一、学力検査科目
○社会　一般社会、日本史、世界史、人文地理、時事問題、商業
○数学　一般数学、解析1、解析2、幾何、簡単の五科目のうちから三科目選択
○理科　物理、化学、生物、地学の四科目のうちから二科目選択
○国語　国語（甲）
○外国語　英語

二、期日
期間未定
二月十七日より三月三日まで
試験期日　三月三十三日より

三、定員
百五十五名

小樽商科大学短期大学部

一、学力検査科目
○社会　一般社会、日本史、世界史、人文地理、時事問題、商業
○数学　一般数学、解析1、解析2、幾何、簡単の五科目のうちから二科目選択
○理科　物理、化学、生物、地学の四科目のうちから一科目選択
○国語　国語（甲）
○外国語　英語

二、期日
期間未定
二月十七日より三月三日まで
試験期日　三月三十三日より

三、定員
百五十名

學内世論を切る ―第二回學内世論調査―

アルバイト種別分類

…日本経済のための政策…

…貴方の最大關心事…

學生運動について 「無關心と書いて」 すまず豪傑

一ケ月 ―生活費― 聖徳太子十枚

平和な生活のために 大學祭準備始まる

第四回青年學生平和祭 八月二日よりフカレストで

▲カレストで歌かれる。

學生の平和祭典 ―八月二日よりブカレストで―

昭和二十七年度收支決算内譯

社團法人緑丘会

社會科學講座

◎ Keynes's General Theory A Reprospective View. A. C. Pigou
◎ An Egnlish-Reader's Dictionary
◎ A Goncise English Dictionaly of Idionis
―商大生の参考書續々入荷―
左文字書店

―刊行の新刊書房七月―三一
毛澤東選集刊行會編譯
毛澤東選集
待望の第六巻　発賣中!!
第六巻　全篇目次　（内容見本呈）
アラゴン著　小島輝・宮崎・小島訳
レ・ヒミュニスト
第四巻まで　発賣中!!
原爆被害者の手記編纂委員會編
原爆に生きて
（原爆被害者の手記）
原爆被害者はいずれもなみなみならぬ決意をもって原爆の実相と原爆禁止の訴えを全世界の人々に訴えている。
東京都千代田区神田平河町一の14　電話(24)6403番　振替東京6403番
京都市左京区北白川瓜生山

何を讀み何を考えているか？
―最近の讀書傾向―

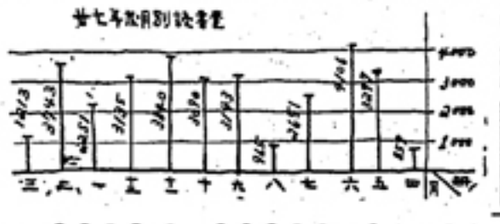
職員の利用激減
學生は月一回弱

圖書館の利用度

まず、手始めとして本年図書館の利用度を調べると、廿七年度利用者の延人員は約一七万〇（館外貸出冊数は約十万冊）であり、一人年廿四回弱の利用度になる。これを廿五年度の月一・二回弱に対して廿七年度は月二回弱となっており、大凡戦後最も図書利用の利用率が高くなっているという見方に誤りはないと思われる。

開架から見ても廿七年度の図書貸出冊数は廿五年度のそれの八割強の増加になっており、館外の利用を一応異論なしとしても、館内閲覧の増加を示している。

次に、オープン・ドリーイの利用度はどうか。廿七年度はオープン・ドリーイの下に置かれた図書に対して利用者数約一八万〇名、廿五年度は約三八〇〇、利用者三〇〇〇であり、一回平均一・九冊となり、廿七年度のそれと同数である。然るに廿五年度のゼミナリスト数は廿五年度の少なくとも分以下であるあり、それを考慮してゼミナリストを除いた閲覧者の利用を調べると、廿五年度の利用者約一四〇〇に対して廿七年度は利用者約七〇〇（何れも概数）前後二倍となっており図書の利用度は絶対に減少している。この原因は図書の減少を意味するものか、あるいは図書の図書利用指導が進んだことを意味するものであろうか。



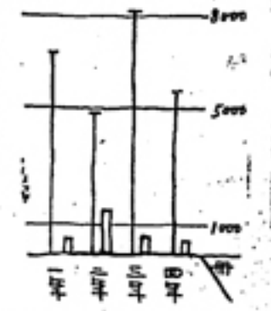
図書利用の統計的観察は図代の変遷的関係があるが、深く研究する問題を投げ掛ける興味ある問題を投げ掛けるのではなかろうか。強いて言えばそのまよの時代の学的問題解明に対する投々の当然的関係をも反映しているのではないか。この意味においては「読まし」の論争問題」をめる点で学問出発点を持っている。

書和と書洋
利用度の高い
廿七年度二年生？

洋書の利用度は一〇〇冊一〇〇であり、廿七年度の最大利用学年は三年で、その読書数が廿五年度、次いで一年、三年の八割強、四年の六割強の順である。

次に、学年別に各学年の利用度を比較すると――

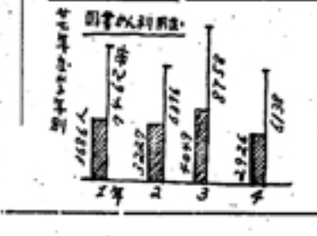
一年
(二)経済・財政　一七三三冊
(三)文学・哲学　一〇四五
(四)歴史　九八二
(五)哲学　六四九
(六)哲学　六二六
二年
(一)経済・財政　八二四
(二)文学・哲学　七三一
(三)法律　六四〇
(四)歴史　五〇三
(五)経済・財政　四五八
三年
(一)哲学　二〇四二
(二)経済・財政　一四〇三
(三)法律　一〇六四
(四)歴史　五三七
(五)政治・政治　四七九
四年
(一)経済・財政　二〇八七
(二)経済・財政　八六〇



學年別傾向
学年を追って
學門、實用的

学年別の利用度を廿七年度利用者について見ると――

一年
(二)経済・財政　一七三三冊
(三)文学・哲学　一〇四五
(四)歴史　九八二
(五)哲学　六四九
(六)哲学　六二六
二年
(一)経済・財政　八二四
(二)文学・哲学　七三一
(三)法律　六四〇
(四)歴史　五〇三
(五)経済・財政　四五八
三年
(一)哲学　二〇四二
(二)経済・財政　一四〇三
(三)法律　一〇六四
(四)歴史　五三七
(五)政治・政治　四七九
四年
(一)経済・財政　二〇八七
(二)経済・財政　八六〇
(三)法律　六四〇
(四)歴史　五〇三
(五)哲学　四五八
(六)哲学　四二六
(七)経済・財政　三八〇
(八)哲学　三六〇
(九)哲学　三四三
(十)哲学　三二三
(十一)経済・財政　二九三
(十二)経済・財政　二八〇
(十三)文学・哲学　二七〇
(十四)歴史　二六五
(十五)経済・財政　二六〇
(十六)哲学　二五八
(十七)哲学　二五一
(十八)哲学　二四八
(十九)哲学　二四三
(二十)哲学　二三五
(二十一)哲学　二三二
(二十二)哲学　二二九
(二十三)哲学　二二七
(二十四)哲学　二二五
(二十五)哲学　二二三
(二十六)哲学　二二一
(二十七)哲学　二一九
(二十八)哲学　二一七
(二十九)哲学　二一五
(三十)哲学　二一三
(三十一)哲学　二一一
(三十二)哲学　二〇九
(三十三)哲学　二〇七
(三十四)哲学　二〇五
(三十五)哲学　二〇三
(三十六)哲学　二〇一
(三十七)哲学　一九九
(三十八)哲学　一九七
(三十九)哲学　一九五
(四十)哲学　一九三
(四十一)哲学　一九一
(四十二)哲学　一八九
(四十三)哲学　一八七
(四十四)哲学　一八五
(四十五)哲学　一八三
(四十六)哲学　一八一
(四十七)哲学　一七九
(四十八)哲学　一七七
(四十九)哲学　一七五
(五十)哲学　一七三
(五十一)哲学　一七一
(五十二)哲学　一六九
(五十三)哲学　一六七
(五十四)哲学　一六五
(五十五)哲学　一六三
(五十六)哲学　一六一
(五十七)哲学　一五九
(五十八)哲学　一五七
(五十九)哲学　一五五
(六十)哲学　一五三
(六十一)哲学　一五一
(六十二)哲学　一四九
(六十三)哲学　一四七
(六十四)哲学　一四五
(六十五)哲学　一四三
(六十六)哲学　一四一
(六十七)哲学　一三九
(六十八)哲学　一三七
(六十九)哲学　一三五
(七十)哲学　一三三
(七十一)哲学　一三一
(七十二)哲学　一二九
(七十三)哲学　一二七
(七十四)哲学　一二五
(七十五)哲学　一二三
(七十六)哲学　一二一
(七十七)哲学　一一九
(七十八)哲学　一一七
(七十九)哲学　一一五
(八十)哲学　一一三
(八十一)哲学　一一一
(八十二)哲学　一〇九
(八十三)哲学　一〇七
(八十四)哲学　一〇五
(八十五)哲学　一〇三
(八十六)哲学　一〇一
(八十七)哲学　九九
(八十八)哲学　九七
(八十九)哲学　九五
(九十)哲学　九三
(九十一)哲学　九一
(九十二)哲学　八九
(九十三)哲学　八七
(九十四)哲学　八五
(九十五)哲学　八三
(九十六)哲学　八一
(九十七)哲学　七九
(九十八)哲学　七七
(九十九)哲学　七五
(百)哲学　七三
(百一)哲学　七一
(百二)哲学　六九
(百三)哲学　六七
(百四)哲学　六五
(百五)哲学　六三
(百六)哲学　六一
(百七)哲学　五九
(百八)哲学　五七
(百九)哲学　五五
(百十)哲学　五三
(百十一)哲学　五一
(百十二)哲学　四九
(百十三)哲学　四七
(百十四)哲学　四五
(百十五)哲学　四三
(百十六)哲学　四一
(百十七)哲学　三九
(百十八)哲学　三七
(百十九)哲学　三五
(百二十)哲学　三三
(百二十一)哲学　三一
(百二十二)哲学　二九
(百二十三)哲学　二七
(百二十四)哲学　二五
(百二十五)哲学　二三
(百二十六)哲学　二一
(百二十七)哲学　一九
(百二十八)哲学　一七
(百二十九)哲学　一五
(百三十)哲学　一三
(百三十一)哲学　一一
(百三十二)哲学　九
(百三十三)哲学　七
(百三十四)哲学　五
(百三十五)哲学　三
(百三十六)哲学　一



學年別傾向
学年を追って
學門、實用的

学年別の利用度を廿七年度利用者について見ると――

一年
(二)経済・財政　一七三三冊
(三)文学・哲学　一〇四五
(四)歴史　九八二
(五)哲学　六四九
(六)哲学　六二六
二年
(一)経済・財政　八二四
(二)文学・哲学　七三一
(三)法律　六四〇
(四)歴史　五〇三
(五)経済・財政　四五八
三年
(一)哲学　二〇四二
(二)経済・財政　一四〇三
(三)法律　一〇六四
(四)歴史　五三七
(五)政治・政治　四七九
四年
(一)経済・財政　二〇八七
(二)経済・財政　八六〇
(三)法律　六四〇
(四)歴史　五〇三
(五)哲学　四五八
(六)哲学　四二六
(七)経済・財政　三八〇
(八)哲学　三六〇
(九)哲学　三四三
(十)哲学　三二三
(十一)経済・財政　二九三
(十二)経済・財政　二八〇
(十三)文学・哲学　二七〇
(十四)歴史　二六五
(十五)経済・財政　二六〇
(十六)哲学　二五八
(十七)哲学　二五一
(十八)哲学　二四八
(十九)哲学　二四三
(二十)哲学　二三五
(二十一)哲学　二三二
(二十二)哲学　二二九
(二十三)哲学　二二七
(二十四)哲学　二二五
(二十五)哲学　二二三
(二十六)哲学　二二一
(二十七)哲学　二一九
(二十八)哲学　二一七
(二十九)哲学　二一五
(三十)哲学　二一三
(三十一)哲学　二一一
(三十二)哲学　二〇九
(三十三)哲学　二〇七
(三十四)哲学　二〇五
(三十五)哲学　二〇三
(三十六)哲学　二〇一
(三十七)哲学　一九九
(三十八)哲学　一九七
(三十九)哲学　一九五
(四十)哲学　一九三
(四十一)哲学　一九一
(四十二)哲学　一八九
(四十三)哲学　一八七
(四十四)哲学　一八五
(四十五)哲学　一八三
(四十六)哲学　一八一
(四十七)哲学　一七九
(四十八)哲学　一七七
(四十九)哲学　一七五
(五十)哲学　一七三
(五十一)哲学　一七一
(五十二)哲学　一六九
(五十三)哲学　一六七
(五十四)哲学　一六五
(五十五)哲学　一六三
(五十六)哲学　一六一
(五十七)哲学　一五九
(五十八)哲学　一五七
(五十九)哲学　一五五
(六十)哲学　一五三
(六十一)哲学　一五一
(六十二)哲学　一四九
(六十三)哲学　一四七
(六十四)哲学　一四五
(六十五)哲学　一四三
(六十六)哲学　一四一
(六十七)哲学　一三九
(六十八)哲学　一三七
(六十九)哲学　一三五
(七十)哲学　一三三
(七十一)哲学　一三一
(七十二)哲学　一二九
(七十三)哲学　一二七
(七十四)哲学　一二五
(七十五)哲学　一二三
(七十六)哲学　一二一
(七十七)哲学　一一九
(七十八)哲学　一一七
(七十九)哲学　一一五
(八十)哲学　一一三
(八十一)哲学　一一一
(八十二)哲学　一〇九
(八十三)哲学　一〇七
(八十四)哲学　一〇五
(八十五)哲学　一〇三
(八十六)哲学　一〇一
(八十七)哲学　九九
(八十八)哲学　九七
(八十九)哲学　九五
(九十)哲学　九三
(九十一)哲学　九一
(九十二)哲学　八九
(九十三)哲学　八七
(九十四)哲学　八五
(九十五)哲学　八三
(九十六)哲学　八一
(九十七)哲学　七九
(九十八)哲学　七七
(九十九)哲学　七五
(百)哲学　七三
(百一)哲学　七一
(百二)哲学　六九
(百三)哲学　六七
(百四)哲学　六五
(百五)哲学　六三
(百六)哲学　六一
(百七)哲学　五九
(百八)哲学　五七
(百九)哲学　五五
(百十)哲学　五三
(百十一)哲学　五一
(百十二)哲学　四九
(百十三)哲学　四七
(百十四)哲学　四五
(百十五)哲学　四三
(百十六)哲学　四一
(百十七)哲学　三九
(百十八)哲学　三七
(百十九)哲学　三五
(百二十)哲学　三三
(百二十一)哲学　三一
(百二十二)哲学　二九
(百二十三)哲学　二七
(百二十四)哲学　二五
(百二十五)哲学　二三
(百二十六)哲学　二一
(百二十七)哲学　一九
(百二十八)哲学　一七
(百二十九)哲学　一五
(百三十)哲学　一三
(百三十一)哲学　一一
(百三十二)哲学　九
(百三十三)哲学　七
(百三十四)哲学　五
(百三十五)哲学　三
(百三十六)哲学　一

讀書傾向
經濟・商業・文學
哲學の競争

読書傾向は（ゼミ、質員を除く）(一)経済五四二冊（二）経済・財政五八〇冊（三）文学・哲学五三一冊（四）歴史五〇三冊（五）哲学四五八冊（六）哲学四二六冊（七）哲学三八〇冊（八）哲学三六〇冊（九）哲学三四三冊（十）哲学三二三冊（十一）経済・財政二九三冊（十二）経済・財政二八〇冊（十三）文学・哲学二七〇冊（十四）歴史二六五冊（十五）経済・財政二六〇冊（十六）哲学二五八冊（十七）哲学二五一冊（十八）哲学二四八冊（十九）哲学二四三冊（二十）哲学二三五冊（二十一）哲学二三二冊（二十二）哲学二二九冊（二十三）哲学二二七冊（二十四）哲学二二五冊（二十五）哲学二二三冊（二十六）哲学二二一冊（二十七）哲学二一九冊（二十八）哲学二一七冊（二十九）哲学二一五冊（三十）哲学二一三冊（三十一）哲学二一一冊（三十二）哲学二〇九冊（三十三）哲学二〇七冊（三十四）哲学二〇五冊（三十五）哲学二〇三冊（三十六）哲学二〇一冊（三十七）哲学一九九冊（三十八）哲学一九七冊（三十九）哲学一九五冊（四十）哲学一九三冊（四十一）哲学一九一冊（四十二）哲学一八九冊（四十三）哲学一八七冊（四十四）哲学一八五冊（四十五）哲学一八三冊（四十六）哲学一八一冊（四十七）哲学一七九冊（四十八）哲学一七七冊（四十九）哲学一七五冊（五十）哲学一七三冊（五十一）哲学一七一冊（五十二）哲学一六九冊（五十三）哲学一六七冊（五十四）哲学一六五冊（五十五）哲学一六三冊（五十六）哲学一六一冊（五十七）哲学一五九冊（五十八）哲学一五七冊（五十九）哲学一五五冊（六十）哲学一五三冊（六十一）哲学一五一冊（六十二）哲学一四九冊（六十三）哲学一四七冊（六十四）哲学一四五冊（六十五）哲学一四三冊（六十六）哲学一四一冊（六十七）哲学一三九冊（六十八）哲学一三七冊（六十九）哲学一三五冊（七十）哲学一三三冊（七十一）哲学一三一冊（七十二）哲学一二九冊（七十三）哲学一二七冊（七十四）哲学一二五冊（七十五）哲学一二三冊（七十六）哲学一二一冊（七十七）哲学一一九冊（七十八）哲学一一七冊（七十九）哲学一一五冊（八十）哲学一一三冊（八十一）哲学一一一冊（八十二）哲学一〇九冊（八十三）哲学一〇七冊（八十四）哲学一〇五冊（八十五）哲学一〇三冊（八十六）哲学一〇一冊（八十七）哲学九九冊（八十八）哲学九七冊（八十九）哲学九五冊（九十）哲学九三冊（九十一）哲学九一冊（九十二）哲学八九冊（九十三）哲学八七冊（九十四）哲学八五冊（九十五）哲学八三冊（九十六）哲学八一冊（九十七）哲学七九冊（九十八）哲学七七冊（九十九）哲学七五冊（百）哲学七三冊（百一）哲学七一冊（百二）哲学六九冊（百三）哲学六七冊（百四）哲学六五冊（百五）哲学六三冊（百六）哲学六一冊（百七）哲学五九冊（百八）哲学五七冊（百九）哲学五五冊（百十）哲学五三冊（百十一）哲学五一冊（百十二）哲学四九冊（百十三）哲学四七冊（百十四）哲学四五冊（百十五）哲学四三冊（百十六）哲学四一冊（百十七）哲学三九冊（百十八）哲学三七冊（百十九）哲学三五冊（百二十）哲学三三冊（百二十一）哲学三一冊（百二十二）哲学二九冊（百二十三）哲学二七冊（百二十四）哲学二五冊（百二十五）哲学二三冊（百二十六）哲学二一冊（百二十七）哲学一九冊（百二十八）哲学一七冊（百二十九）哲学一五冊（百三十）哲学一三冊（百三十一）哲学一一冊（百三十二）哲学九冊（百三十三）哲学七冊（百三十四）哲学五冊（百三十五）哲学三冊（百三十六）哲学一冊

廿五年度との比較
哲学は無用の
現在の學生？

(とこ)ろで、廿七年度の学年別利用者は一、二年生利用者の多くが三年以上に集中している。(とこ)ろで、廿五年度の学年別利用者は一、二年生利用者の多くが三年以上に集中しているが、これは廿七年度に於ても傾向的であるようである。この傾向は一、二年生の教養科目の重視と、三年以上の専門科目の軽視を意味するものであろうか。